

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第19講座】

開催日 2023年3月28日（火）～2023年3月30日（木）

- 場 所 萩セミナーハウス（萩市大字堀内 211-1） 瑠璃光寺五重塔（山口市香山町 7-1）
萩八景遊覧船（萩市堀内 122-1） 海潮寺（萩市北古萩 50）
ホテルニュータナカ（山口市湯田温泉 2-6-24）
小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

- 参加者

- 第1期生13名（欠席3名）

- 木村 貴志 塾長 / 森 就子（事務局） / 井上 和樹（事務局） / 西山 茂代（事務局）
笹月 将（Vision&Education, Ltd 研究員）

- 内 容 卒塾前研修 萩往還を歩く

【第1日目（3/28）】

7:20～7:30	出欠確認・小郡市生涯学習センター出発
10:30～11:30	国宝瑠璃光寺五重塔、枕流亭、うぐいす張りの石畳の見学
11:30～12:30	昼食（「長州苑」にて定食）
12:30～15:30	萩市散策、萩八景遊覧船に乗る
16:00～17:00	海潮寺にて座禅体験
17:30～20:30	萩セミナーハウス到着・夕食（食堂にてハンバーグ）・入浴
20:30～22:00	ミーティング（本日の振り返り・明日の活動確認）

- 国宝瑠璃光寺五重塔、枕流亭、うぐいす張りの石畳の見学

- 瑠璃光寺五重塔

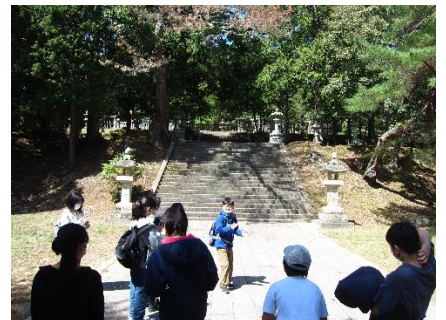
京都の醍醐寺、奈良の法隆寺に並ぶ日本の三名塔の一つ、瑠璃光寺五重塔に訪れました。今回の萩往還のゴール地点に設定されており、塾生は長い萩往還の道のりの明確なゴールをイメージしやすくなりました。

- 枕流亭

幕末のころ、薩長連合の密会に使われた場所がこの枕流亭であり薩摩からは西郷隆盛らが、長州からは木戸孝允らが訪れた場所に実際に足を踏み入れました。またここで改めて明治維新で活躍した人物について学び、過去の人々の努力によって我々の現在の生活が成り立っていることを再認識することができました。

- うぐいす張りの石畳

このうぐいす張りの石畳の上では拍手や足踏みをして大きな音を出すと石段から音が反響してうぐいすの鳴き声のような不思議な音が聞こえてきます。塾生は自ら出したなぞの反響音に興味を示していました。



■ 萩市散策、萩八景遊覧船乗船

○萩八景遊覧船に乗る前に、萩の海岸を散策し自然を体感しました。



○萩八景遊覧船に乗る

萩八景遊覧船に2班に分かれて乗船し、萩を海側から見ることで新たな気づきを得ました。

遊覧船からは、萩八景和歌集に詠まれた美しい景色を見ることができました。



■ 座禅体験

○海潮寺にて、住職の指導による座禅を体験し、姿勢、呼吸、気力がないと体勢が崩れ、体の様々な部位が痛くなることを感じました。また、住職よりお話をいただき、体の様々な部位に日頃から感謝しながら生活していくことの大切さを学びました。



■ ミーティング（本日の振り返り・明日の活動確認）

＜塾長より＞

第1期生もそろそろ終わりに近づいてきたので、卒塾までを意識してミーティングを行う。志学舎設立の目的は何だったのか。何が身についたのか。志を学ぶとあったが、志があるとどうなるのかということ、自分で考えるようになる。そうすると他の人にもいろいろとできるようになる。人に伝える力がつくことで、世の中のためになる人になる。残り少ないので、仲間を大事にしてほしい。また、今の服装についてだが、この時間は研修の時間だが、みんなは寝るときの服装になっている。このあたりの判断が足りていない。これは塾長の責任でもあるが、みんなも意識してほしい。マナーも習慣。変えようと思わなければ変わらない。

【塾生より（志学舎で手に入れたもの）】

- ・考えて行動する癖がついた。
- ・書く力、聴く力が上がったと思う。
- ・メモする力が身についた。
- ・挑戦してみようと思うようになったこと。
- ・発表する力。
- ・学年、学校が違う人と仲良くなれた。
- ・時間（期限）を守ることができるようになった。
- ・文章を書く力が上がった。
- ・コミュニケーション能力が高まった。

- ・積極的になった。

《萩セミナーハウスでの様子》



【第2日目 (3/29)】

5:30～ 6:30	起床・朝食・出発準備
7:00～12:00	萩往還を歩く①（涙松遺址～佐々並市）
12:00～13:00	佐々並味処 はやし屋にて昼食（豆腐料理）
13:00～18:00	萩往還を歩く②（佐々並市～瑠璃光寺五重塔）
18:30～20:45	「ホテルニュータナカ」にて入浴・休憩・夕食（洋食）
20:45～23:00	ミーティング（本日の振り返り）

■ 萩往還を歩く①

涙松跡を出発し、悴坂一里塚―首切り地蔵―栗山孝庵女刑死体腑分跡石碑―悴坂隧道―明木市―一升谷―落合の橋跡付近を經由して、佐々並市まで、途中休憩をはさみながら踏破しました。



■ 佐々並市で昼食休憩。

佐々並味処 はやし屋にて昼食をいただきました。佐々並市は古くから豆腐作りが盛んであり、はやし屋では豆腐やおからが用いられた料理をいただきました。塾生は和食のテーブルマナーに気を付けつつ、普段ではなかなか食べることの出来ない、豆腐づくしのメニューをいただきました。



■ 萩往還を歩く②

昼食休憩後、佐々並市を出発して、日南瀬の首切れ地藏ー逆修石ー国境の碑へと至りました。国境の碑では、班ごとに集合写真を撮りました。その後、一貫石ー六軒茶屋跡で休憩し、一ノ坂ダムの横を通って、無事全員がゴールである瑠璃光寺五重塔に到着することができました。



■ ミーティング（本日の振り返り）

「萩往還を歩く」で感じたこと、気づいたこと、学んだことを、班に分かれて一人ずつ意見を出し合い、その後各班の意見を出し合い、お互いがどのように感じていたかを学びあう機会となりました。

○各班からでた意見

【1班】

- ・友情、チームワーク、自然と助け合う雰囲気→他の人にも話しかけやすい
- ・自然の音を感じる
- ・バスや車の便利さに気がついた
- ・歴史を実感

<塾長より>

- ・みんなで大変なことをやった（ともに困難を乗り越えた）から、みんながより仲良くなった。

【2班】

- ・自然が気持ちよかった
- ・塾長が笑顔で歩いていて、自分もそうなりたと思った
- ・自分の事でチームがバラバラになることに気がついた
- ・リュックを忘れないようにしたい

<塾長より>

- ・きつそうな顔をして歩いても、距離が短くなるわけでもないし、疲れが取れるわけでもない。逆に笑顔で楽しくやると気持ちがよい。これは仕事でも同じで、ネガティブな事よりポジティブな事を言う、人の悪口より自分ができることをすることがうまくいく。
- ・リュックを忘れるのは、率直さがなく、自然をなめている証拠。なぜそれが必要かの理由を深く考えることができていない。一事が万事。

【3 班】

- ・ 仲間と協力、会話して友情が深まった
- ・ 現代は楽なものに頼っているので、体が弱くなった
- ・ 30 km 歩く大変さを実感した

< 塾長より >

- ・ 知識だけでなく、経験を通して学ぶことで、歴史を感じ取ることができる。
- ・ 楽をして得られるものはないので、自分のできることをやっていく。

【第 3 日目 (3/30)】

- 6 : 00 ~ 8 : 00 起床・朝食 (バイキング)
- 8 : 30 ~ 12 : 00 研修 (なぜ、萩往還を歩くのか。伝えたいこと)、スピーチ練習
- 12 : 00 ~ 13 : 00 昼食 (弁当)
- 16 : 00 ~ 16 : 30 スピーチの最終練習
- 16 : 30 ~ 18 : 30 萩往還解散式

■ 研修 (なぜ、萩往還を歩くのか。伝えたいこと)、スピーチ練習

○ 塾長より、なぜ萩往還を歩くのかを伝える

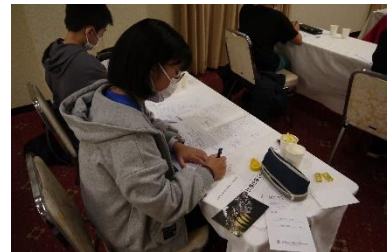
- ① 人生は道。どのように歩くかは自分で決める
- ② 「美しいゴール」 = 「志」を持つ
- ③ 一歩踏み出し続けることの大切さを知る
- ④ 中間目標の大切
- ⑤ やり遂げると決める。できない理由を探さない。
- ⑥ 人間は五感で大切なことを学ぶ
- ⑦ 自分を陰で支えてくれる人が必ずいる
- ⑧ 体力が大切
- ⑨ A B C (あたりまえのことを、ばかみたいに、ちゃんとする) の力
- ⑩ 応答する力
- ⑪ 達成感はゴールの先にしかない
- ⑫ さらに遠くのゴールを持つ

○ スピーチの作成、練習

< 塾長より >

具体例をいくつか出して、それから・・・ということとはするなど、その具体例から何を学んだのかを一般的に言えることに変換する必要がある。

- ・ シナリオ作成→スピーチ→シナリオ修正を繰り返して実施 (最後は情報カードにまとめる)



- ・ ペアでのトレーニング (アイコンタクトを意識する。原稿は見ないように。)



- ・自分のスピーチを精査、ゆるぎないものにする。



○松下幸之助の言葉

- ・道　・志を立てよう　・万策尽きたと思うな。

■ 萩合宿解散式

【出席者】

- ・主催者代表：小郡市長 加地 良光
- ・支援者：小郡ロータリークラブ 会長 野田 様
- ・実行委員：医療法人天神会 白木 様、みい青年会議所 三宅 様（副実行委員長）、三原 様
小郡ライオンズクラブ 黒川 様、福岡県青少年育成課 中野 様、緒方 様
- ・塾生の保護者の皆様【13名】

○スライドショーにて萩往還を歩くを振り返る

☆A さん

私が今回の合宿で感じたこと、気づいたこと、学んだことは2つあります。1つ目は1日目のことです。1日目は、前半はグループ関係なくばらばらに歩いていたので、私は前のほうで歩いていたのですが、前だと塾長などと話ができるし、後ろの人たちを待っている間休憩することもできるので、前のほうが楽に感じました。自由に座ってよい席なども前のほうが得なことが多いし、いろいろないいことがあるので、積極的に前を選ぶようにしようと思いました。一升谷を歩いて行ったのですが、なぜ炒豆を食べていったのかなど色々疑問があるので家で調べてみようと思います。また、歩いている途中でバスの運転手さんがアクエリアスをプレゼントしてくれて、冷たくておいしかったし、うれしかったです。2つ目は、萩往還を歩く以外のことについてです。萩往還以外では、海に少し遊びに行ったのですが、映像にも出ていたように海に向かう途中で看板に「キケン」とかいてあったので大丈夫かなと思っていたのですが、普通にきれいでした。ごみは少しあったけど。そんな中で生き物は普通に元気に暮らしていて、イソギンチャクなどもいたのすごいなと思いました。遊覧船では、2班に分かれて乗ったのですが、Uターンするところで船に手を振りました。その船は関係のない船でしたが、船に乗っている人が手を振ってくれてうれしかったです。また、船頭さんが橋の下を通るときに屋根をぎりぎりまで下げるサービスをしてくれてうれしかったです。一言でいうと、萩往還は萩往還を歩くのは大変だったけれど、みんなが励ましてくれてとってもうれしかった合宿でした。



☆B さん



私がこの萩合宿で感じたこと、気づいたことなどは2つあります。まず1つ目は美しいゴールについてです。今日の研修で塾長が美しいゴールを持つことは志を持つことだと教えてくれました。私は確かにそうだなと思いました。塾長がたとえ話で、ゴールを瑠璃光寺ではなくコンビニにしていたら、行く力がなくなるといわれて、私は確かにそうだなと思いました。私は自分でも楽しみなゴールを目指してみようと思い、ソフトクリームや温泉をゴールにして目指してみました。自分でもゴールを作ってみると、楽しみなことがいっぱい増えて、やっていける力が増えると思いました。次に2つ目は、萩往還についてです。萩往還は石畳がいっぱいあってきれいでした。石畳には苔が生えていて、昔の人が一生懸命作ったこととか、これを松陰さんとかが踏んでいったのかなと思いました。どの石を踏んでいったのか探してみたり、すごく疲れた時は歌を唄って疲れを飛ばしました。私は、今の人は楽なものに頼りすぎて足腰が弱くなったのではないかと感じました。その理由は、昔の人は図のように短距離で道を作っていて、それを歩いたのですごく疲れました。しかし、現代の人たちは、図のように直線ではなく緩やかにゆっくりとゴールを目指す道を作っていて、私たちが普段上っている山よりも萩往

還はとても急だと思いました。今の人は、車や自転車に乗って外出してしまい、それに頼りすぎて余り歩くことがなく、歩くことが面倒くさくなっていて足腰が弱くなっているのではと思いました。松陰さんのような昔の私たちは、車などないので、いっぱい歩いて足腰が強くなったので、先ほど見せた図のようにまっすぐの道を作ったのかなと思いました。私も遊びに行くときに乗り物に乗ってしまうので、これからは歩いて行こうと思いました。この合宿を一言でいうと、みんなと楽しく遊んだり学んだりしながら、萩往還を歩いた合宿でした。

◎小郡寺子屋「志学舎」実行委員会 副実行委員長 三宅 様より

皆様にお伝えしたいことが2つあります。1つ目はメモを取ることの大切さについてです。前回のスピーチの時にお話しさせていただきましたが、今日見ていると多くの皆様が仲間のスピーチをメモを取りながら聴いている姿を見ることができました。仲間を思う気持ちで最後のスピーチにも臨んでいただきたいと思います。2つ目は志、そして仲間が人を動かすということです。今回のウォーキング、仲間がいなかったら、みんなでゴールしたいという思いがなければ、ゴールできなかったんじゃないかなと思います。吉田松陰も日本を変えたいという素晴らしい志の中で50kmを毎日歩くことができたと思います。皆さんも志、仲間を大切に、残り2回の講座をどういった思いで過ごすかが大切になると思います。ぜひ、楽しみながら過ごしてほしいと思います。



◎医療法人天神会 白木 様より

今回30km歩かれたということですが、今後いろいろ達成しなければならないことが出てくると思います。その時に今回の経験を思い出すと、いろいろな苦難も乗り越えていけるとと思います。

◎小郡ロータリークラブ 会長 野田 様より

入塾式のときより今の姿を見ると非常に成長して、堂々とスピーチされていてとても感心しています。目的を持って30kmを歩いたということが、皆さんの今後の人生の困難に耐えうる力となると思います。あと講座も2回ですが、この貴重な研修を十分に堪能して、自分の力にしていきたいと思います。そして、保護者の皆さん、子どもたちを誉めてあげてください。



◎みい青年会議所 三原 様より

子どもの体では、陰しく厳しい道だと感じたと思いますが、体全体を通して貴重な体験をこの萩往還で得ることができたんじゃないかと思っています。これからの成長を楽しみにしています。



◎小郡ライオンズクラブ 黒川 様より

いままでの講座では、木村塾長から頭と心の鍛錬を受けてきたと思います。萩往還30kmを歩くことで体の鍛錬をして帰ってきて、皆さんたくましく見えるように感じます。卒塾式までは短い時間だと思いますが、歴史から学んだこと、達成感を感じたこと、スピーチでもできた感謝することは志を持って活動していく中でキーワードとなってくるとと思いますので、卒塾式以降も大切に生活して行ってほしいと思います。本当にいいスピーチを聞かせていただきました。



◎福岡県青少年育成課 緒方 様より



日々の生活で触れることのできない自然や歴史を学んだり、同じ目標を持つ仲間たちと困難を乗り越えたりといった貴重な体験は、これからの中学生、高校生とステップアップするときにたくさんの中で活かされてくると思うので、今回気づいたことや感じたこと、学んだことを忘れないで毎日を過ごしてほしいと思います。

◎福岡県青少年育成課 中野 様より



日常生活で味わえない体験を通して学んだことを、これからの日常生活での成長、人生への成長へとつなげて行ってほしいなと思います。また、人前で発表することはかなり緊張すると思います。皆さんは自信があったから、前でいろいろなことを話すことができたのかなと思います。これから皆さんは発信していく側として自信を持ってほしいということといろんなことにチャレンジして自分を磨いて行ってほしいと思います。

◎主催者代表 小郡市長 加地 良光 より

皆さん、お帰りなさい。素敵な顔を改めて見て、本当にうれしく思います。皆さんの話と木村塾長の話を聞いて、この合宿の意義を2つ感じています。1つ目はみんなが感じる心を鍛えたな、心を開くということを学んだなと思っています。これは萩の自然や歴史に対して心を広げたことでいろんなことを掴んできたと思っています。いろんなことを感じることは日常でもできると思



います。萩合宿で心が開かれた皆さんは、これからいろんなものに感動するような毎日にしていったらより人生豊かになると思います。2つ目は、萩往還の30 kmは人生の姿そのものが現れるなど、これは皆さんが生きていく人生の縮図だと思います。ゴールの設定、歩き方、仲間との考え方の中にいろんなものが凝縮されていたと思います。是非皆さんがこれから生きていくうえで、この経験を大事な財産としていただけてくれたらなと思います。最後にどんなスピーチをしてくれるか楽しみにしています。あと、皆さんは1期生です。1期生はいろんなものの最初ですので、皆さんがこの志学舎の成果となるわけです。是非プライドを持って、1期生みんなで手をつないでゴールをしてほしいと思います。